

| 展覧会プレスリリース | 2013/12/1

コレクション♡リコレクションVOL.3

2014年1月2日(木)–6月29日(日)



当館の幅広い収蔵品を紹介するシリーズ企画「コレクション・リコレクション」の第3弾では「山口長男」と「コレクションは語る」の2つの展覧会を同時に開催いたします。「山口長男」では日本の近現代絵画に大きな足跡を残した山口長男(1902-1983)の油彩画8点に加え、水彩や絵付け陶器も交えながら彼の芸術を多角的にご紹介します。また、4つのセクションから構成される「コレクションは語る」では、画面に描かれた文字や単語、画家やモデルにまつわるエピソードなどに注目します。作品をめぐる数々の言葉によって紡ぎだされる新しい物語をお楽しみください。

開館時間 9:30–17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜(ただし1/13, 5/5は開館)、1/14(火)、5/7(水)
入館料 一般900円(800円)／学生・65歳以上700円(600円)／小中学生・高校生500円(400円)
※()内は20名以上の団体料金
※2月15日(土)DIC創業記念日、5月18日(日)国際博物館の日は入館無料
※5月5日(月・祝)こどもの日は高校生以下入館無料
会場 DIC川村記念美術館(千葉県佐倉市坂戸631番地)
URL kawamura-museum.dic.co.jp
主催 DIC株式会社
後援 千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

取材および資料請求のお問い合わせ

DIC川村記念美術館 tel. 043-498-2672(掲載用 0120-498-130)/ fax. 043-498-2139
広報担当 林里絵子 rieko-hayashi@ma.dic.co.jp 宗悦科 etsuka-sou@ma.dic.co.jp
担当学芸員 赤松祐樹 yuuki-akamatsu@ma.dic.co.jp(山口長男)
横山由紀子 yukiko-yokoyama@ma.dic.co.jp(コレクションは語る)

山口長男 | Takeo YAMAGUCHI

202展示室では、日本の近・現代絵画に偉大な足跡を残した山口長男 [1902 (明治35)年 - 1983(昭和58)年]の作品を展観します。現在の韓国ソウル市 (本籍は鹿児島) に生まれた山口は、東京美術学校を卒業し渡仏、佐伯祐三や荻須高德らと行動をともにした後、ソウルで制作しながら二科会内部の前衛的グループ「九室会」に参加します。戦後帰国後は、黒や茶、黄土色を独自の形態に塗り込めた作品により内外の高い評価を得ています。その作品は、抽象的でありながらも、具体的なものや眼前の対象の観察や接触の積み重ねから制作されており、欧米の抽象絵画とは異なった深い魅力をたたえています。本展示では、1930年代の初期作品から1960-70年代の代表的な作品に至る油彩8点に加え、水彩や絵付け陶器によって山口長男の芸術を多角的に紹介します。



《捲》 1965年 油彩、合板 180.0×180.0cm



《軌》 1968年 油彩、合板 90.7×90.7cm



《庭》 1937年 油彩、カンヴァス 65.0×90.8cm



《作品》1970年
水彩、紙 54.0×38.0cm



《作品》制作年不詳
水彩、紙 54.0×38.0cm



《作品》制作年不詳
水彩、紙 54.0×38.0cm



《皿絵付》制作年不詳 Ø36.5cm



《皿絵付》制作年不詳 34.0×35.0cm

山口長男

略年譜

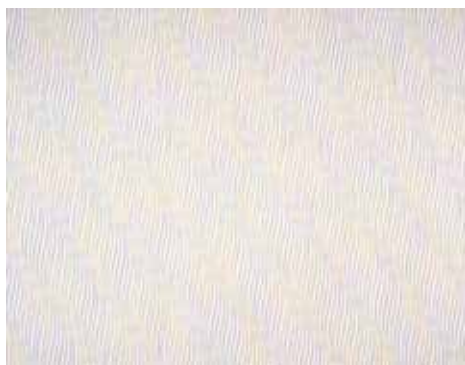
- 1902 (明治 35) 年 11月23日現在の韓国ソウル市に実業家山口太平衛の長男として生まれる
(本籍は鹿児島県)。
- 1922 (大正 11) 年 20歳 東京美術学校西洋画科に入学。
- 1927 (昭和 2) 年 25歳 東京美術学校卒業。猪熊弦一郎、牛島憲之、岡田謙三、荻須高德、小磯良平などが同級。荻須とともに渡仏し、佐伯祐三らとパリで制作する。
- 1928 (昭和 3) 年 26歳 佐伯の病状が悪化、看病しながら制作を続けるが、8月に佐伯は没する。彫刻家オシップ・ザッキンと知り合い、以後アトリエに通う。
- 1931 (昭和 6) 年 29歳 ソウルに帰る。'40年まで当地から二科展に出品。
- 1938 (昭和 13) 年 36歳 東郷青児、藤田嗣治を顧問として吉原治良、桂ユキ子、山本敬輔らと二科会内に前衛的グループ「九室会」を結成。
- 1946 (昭和 21) 年 44歳 日本に帰国 (東京都芝車町、高井戸に居住の後 '53年小平に転居)。
- 1954 (昭和 29) 年 52歳 武蔵野美術大学教授となる (~'74年。'82年学園長就任)。
- 1955 (昭和 30) 年 53歳 サンパウロ・ビエンナーレに出品。
- 1956 (昭和 31) 年 54歳 ヴェネチア・ビエンナーレに出品。
- 1960 (昭和 35) 年 58歳 この頃より毎年のように霧島焼窯元で陶器の絵付けを行う。
- 1963 (昭和 38) 年 61歳 サンパウロ・ビエンナーレに出品。
- 1972 (昭和 47) 年 70歳 南画廊で個展開催 (日本橋DICビルへ画廊移転第1回展。南画廊では '61、'65、'68、'75年にも個展開催)。
- 1980 (昭和 55) 年 78歳 「山口長男・堀内正和展」(東京国立近代美術館)、
「山口長男展」(北九州市立美術館) 開催。
- 1983 (昭和 58) 年 80歳 4月27日小平市で逝去。

展覧会のちらし、収蔵品のカタログ、ギャラリートークや音声ガイド、そして作品の脇に添えられたキャプション。美術館にはさまざまな言葉があふれています。言葉によって作品と鑑賞者をつなぐことは、美術館の持つ大きな役割のひとつだと言えるでしょう。そして作品と向かい合う時、私たちは美術館が差し出す言葉を超えて、より自由に考え、感じたことを言葉にして誰かに伝えたり、書き綴ったりします。作品と鑑賞者の間に言葉が生まれる場として、美術館は多様な可能性を秘めているのではないのでしょうか。この展覧会では、コレクション作品と文字・言葉・テキストの関係に着目し、「ことば」という鍵を手がかりとして豊かなイメージの扉を開きます。作品をめぐる数々の言葉によって紡ぎ出される新しい物語をお楽しみください。

SECTION

1

絵の中の風景を見て懐かしい場所を思い出すように、作品を見てふと思いつく言葉があります。並んだ作品に、どんな言葉が見えますか？



ブリジット・ライリー 《朝の歌》1975年
アクリル、カンヴァス 211.0×272.0cm
©Bridget Riley 1975



フランク・ステラ 《タンパ》1963年
防錆塗料（鉛丹）、カンヴァス 252.4×252.4cm
© Frank Stella / ARS, New York / JASPAR, Tokyo, 2013 E0782

SECTION

2

画面に書かれたアルファベットや数字、記号。それぞれの作家が用いた手法の違いに注目しながら、作品に投影されたメッセージを読み解きます。



ジョルジュ・ブラック 《マンドリン》1912年
油彩、カンヴァス 24.3×35.0cm（楕円形）
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013 E0782



飯田 善國 《HOPE-KIBO》1973年
アクリル、カンヴァス 125.0×125.0cm

SECTION 3

アリスがウサギを追って穴に落ちたら、そこは美術館でした。コレクション作品が「不思議の国」の登場人物になりすまし、もうひとつの物語の世界「美術館の国のアリス」が繰り広げられます。



アン・アーノルド 《ラム・タム》 1969年
アクリル、カンヴァス、木 59.5×102.0×72.0cm DR



山口勝弘
《マッシュルーム》
1963年 麻布、鉄
151.0×152.5×60.0cm

SECTION 4

画家のエッセイ、モデルにまつわるエピソード、批評家や文学者のテキストなど、作品をめぐるさまざまな言葉を取りあげます。



ジョセフ・コーネル 《無題(アンドレ・ブルトン)》
1966年頃 写真、切手、複製画、コイン、木片、塗料、
鉛筆、メゾナイト(硬質繊維板) 30.4×22.7cm
© The Joseph and Robert Cornell
Memorial Foundation / VAGA,
N.Y. & JASPAR, Tokyo, 2013 E0782



藤田嗣治 (レオナルド・フジタ)
《アンナ・ド・ノアイユの肖像》 1926年
油彩、カンヴァス 167.1×108.4cm
© Foundation Foujita / ADAGP, Paris &
JASPAR, Tokyo, 2013 E0782

会期中のイベント

■担当学芸員によるギャラリートーク

1月11日(土)、2月15日(土)、3月21日(金・祝)、
4月12日(土)、5月18日(日)、6月14日(土)
14:00-15:00
各企画の担当学芸員が展覧会の解説を行ないます。
予約不要/エントランスホール集合

■ガイドツアー

毎日 14:00-15:00 (ギャラリートーク開催日を除く)
ガイドスタッフがコレクション展示と企画展をご案内します。
予約不要/エントランスホール集合
■音声ガイド
当館収蔵品と展覧会の解説をお聞きいただけます。1台 500円

■ミュージアムコンサート

～石が奏でる癒しの調べ～ 「小松玲子 サヌカイト & マリンバコンサート」 ゲスト: 松岡淳 (ピアノ)
2014年 3月15日(土) 開場 17:45 開演 18:00 一般 2,800円、友の会会員 2,300円

■にわのわ アート&クラフトフェア・チバ

5月31日(土)、6月1日(日) 10:00-16:00 会場: 庭園内 (中学生以上 300円)
千葉を愛する作家たちによるクラフト作品などの屋外マーケット。
臨時駐車場からシャトルバスを運行します。
事前にアクセス情報をご確認ください。
主催: 「にわのわ」実行委員会 <http://niwanowa.info/>

